



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



UNESCO
Associated
Schools

CONNECT

ユネスコスクールニュースレター

“オンライン・オフラインにおける児童・生徒のウェルビーイング” 第16号 2021.04 発行

国際コーディネーターより（要約）

ASPnet コミュニティの皆様
ナショナルコーディネーターの皆様
教員・児童および生徒・保護者の皆様

本ニュースレターのCONNECTはちょうど昨年の今頃、パンデミックによる前例のない休校という事態において、ASPnetコミュニティのつながりと連帯を強化するために発行されました。本号では、過去1年間にわたって展開されたさまざまな活動やイベントの結果、私たちにとってますます重要になっていることについて取り上げます。

皆様のご意見を伺い、新たな課題として重要となってきたのは、感情面のウェルビーイング（幸福感）と社会性と情動の学習（SEL）であるという結論に達しました。

本号では、ユネスコが取り組んできた社会性と情動の学習の領域、とりわけ、より年長の児童・生徒に比べて情報の少ない幼少期における保育と発達に関連する実例を紹介いたします。

そのため、ユネスコのEarly Childhood Care and Education（幼児保育と教育）のコーディネーターであるRokhaya Diawaraからの早期教育に関する特別なメッセージや、ユネスコバンコク事務所が推進する幼児期の社会性と情動の学習の実例も共有したいと思います。

また、価値観を伝え、オンラインコンテンツから子どもたちを守ることに焦点を置いた、子どもたちのためのオンライン学習教材を扱うPower of Zeroの取り組みを紹介します。インタビューに答え、メッセージを共有してくださったNicholas Carlisleに特に感謝申し上げます。

最後になりましたが、ASPnet x ユネスコ「教育の未来」プロジェクトに関するウェビナーの最新情報についてもお伝えします。2050年以降の教育について、地球規模の振り返りや議論に参加し多大なる貢献をしてくださったナショナルコーディネーター、ユネスコスクールの学校長の皆様、教員の皆様、児童・生徒、そして保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。皆様の声は今年11月に「教育の未来」国際委員会が発行するグローバルフラグシップレポートに反映されます。

ASPnet 国際コーディネーターチームは、この一年間、大変な困難の中において皆様が取り組んできた成果をユネスコの優先課題と結びつけることができ、光栄に存じます。皆様の貴重な声、ご意見、創造性、そして共有してくださった体験に改めて敬意を表します。

主なコンテンツ

- ◆ 政策と生涯学習システム課 幼児保育と教育コーディネーター（Coordinator of Early Childhood Care and Education, Division for Policies and Lifelong Learning Systems）Rokhaya Diawara からの特別メッセージ

[ビデオメッセージ、メッセージ文、略歴](#)

- ◆ オンラインでもオフラインでも子どもたちが豊かに生きるために必要なスキルを身につけさせるためのユネスコの取り組み

地球規模のパンデミックにおける教育に[対応](#)するため、ASPnet は [Learning Never Stops](#) キャンペーンを立ち上げ、ロックダウンや休校の中、どのように学習を継続したかの体験をユネスコスクール加盟校の児童・生徒、教員、保護者の皆様に共有していただきました。ユネスコは、とりわけ新型コロナウイルスの感染拡大のような[危機](#)下における[社会性と情動のウェルビーイング](#)を守る力を強調する[幼児保育と教育](#)の重要性を推進しています。また、[包括的な学校保健アプローチ](#)の一環として、校内暴力やいじめにも取り組んでおり、[ネットいじめを含む、学校での暴力といじめに反対する国際デー（International day against violence and bullying including cyberbullying）](#)を支持しています。

- ユネスコの社会性と情動の学習

ユネスコの[マハトマ・ガンジー平和と持続可能な開発のための教育研究所（MGIEP）](#)は、[Rethinking Learning](#) のレポートの発行等、社会性と情動の学習に関し、多くの取り組みを実施してきました。最近では、「教育 2030 に向けた社会性と情動の学習の構築を通じた人類の教育の変革（Transforming Education for Humanity by Building Social and Emotional Learning for Education 2030）」のビジョンに基づき、ユネスコの地球市民と平和教育セクション（Section of Global Citizenship and Peace Education）と共にワークショップを開催しました。このワークショップでは、学習成果を改善するために、社会性と情動の学習の効果に関する最新のエビデンスを活用することで、生涯にわたりすべての学習者に公正で包摂的な質の高い教育の提供（SDG4）に向けた各国の取り組みを支援するためのユネスコの能力を向上させることを目的としています。

- 幼児期の社会性と情動の学習

幼児保育と教育に焦点を当てた社会性と情動の学習について、ユネスコバンコク事務所では東南アジアと太平洋小島嶼開発途上国向けに [ECCE Teacher Competency Framework for South East Asia](#)（東南アジア地域における幼児保育と教育のための教員のコンピテンシーの枠組み）と [ECCE Teacher Competency Framework for the Pacific](#)（太平洋地域における幼児保育と教育のための教員のコンピテンシーの枠組み）を発行しました。

現在、教員のコンピテンシーの枠組みに基づき、地域の教員養成ハンドブックと教員就任前の社会性と情動の学習のための 11 のモジュールを作成しており、2021 年半ばには完成する見込みです。詳細は [プロジェクト概要](#)をご覧ください。

- ◆ Power of Zero - オンラインで子どもたちにパワーを与え、守るためのグローバルキャンペーン

[Power of Zero](#) は、子どもたちがオンラインの世界を安全に利用し、より良く学び、生きるためにその利点を活用する上で必要な生活技能を身につけさせるためのグローバルキャンペーンです。インターネットは学習を継続する上で教師と児童・生徒をつなげる極めて重要な役割を果たしていますが、そのマイナス面に

も注意しなければなりません。

まず、すべての人がインターネットにアクセスできる環境にあるわけではないため、オンライン授業に参加できない子どもたちがいます。また、学習は、教師や保護者が子どもたちに相当な精神的および実質的なサポートをすることにより初めて成り立ちます。さらに子どもたちは、インターネット上において誰、そして何を信じて良いかについて学ばなければなりません。

キャンペーンは批判的思考や尊重、インクルーシブであることなど、12 Powers for Good のコンセプトに基づき、世界各国の学校や家庭に向けた学習教材を提供しています。ユネスコはキャンペーンの共同設立者であり、その国際運営委員会と顧問団に籍を置いています。

◆ オンライン世界におけるスキルと価値 - Power of Zero ディレクター兼 CEO Nicholas Carlisle インタビュー

[インタビューと略歴](#)を見る

ASPnet はこのグローバルキャンペーンと協働し、子どもたちがインターネットにアクセスすることについての体験、ニーズ、その他の関連する情報を評価する調査を行っています。最新の調査の進捗や詳細については今後お知らせします。

◆ 最近のユネスコの活動

- 2月21日の国際母語デー 多言語使用を推進：ユネスコは毎年、[国際母語デー](#)に持続可能な社会のための文化と言語の多様性の重要性について取り上げています。今年は「Fostering multilingualism for inclusion in education and society（教育と社会におけるインクルージョンのための多言語使用の促進）」をテーマに[ウェビナー](#)を開催しました。
- 3月8日の国際女性デー ICTにおけるジェンダーギャップに焦点：今年の[国際女性デー](#)では、デジタルスキルとAIの分野における根強く、重大なジェンダーギャップに焦点を当てました。イベントでは、女性や女兒が優れたAI技術を身につけ、ICTにおける「男女平等パラドックス」に対処し、AIシステムの設計、開発、展開に完全に参加できる方法について議論されました。
- 3月21日の国際人種差別撤廃デー：1966年10月26日の[国連総会決議 2142 \(XXI\)](#)にて、3月21日を[国際人種差別撤廃デー](#)とすることが制定されました。3月21日は、1960年に南アフリカのシャープビルにてパス法（南アフリカに住む18歳以上の黒人に身分証の携帯を義務づけた法律）に反対する平和的なデモに対し警察が発砲し、69名の死者を出した日です。ユネスコは毎年この日を記念し、時にはInternational Coalition of Inclusive and Sustainable Cities [ICCAR](#) の加盟都市と協力し、さまざまはイベントを開催してきました。人種差別に対する闘いは、寛容の教育を通して平和を構築し、文化やメディアに根強く残る人種差別的なステレオタイプの撤廃を目指すユネスコの取り組みの中心的な要素となっています。

◆ ASPnet からのお知らせ

- ASPnet x ユネスコ「教育の未来」ウェビナー 大成功！
87ヶ国から479名の参加者が集まった3回のウェビナーは、未来を形作るための意欲的な試みであり、ますます複雑化し、不確実で不安定さの増す世の中において、教育、学習および知識をどのように再考するか議論する場となりました。イベントの詳細については改めてご報告しますが、[さらなる情報](#)はASPnetのウェブサイトよりご確認いただけます。

- ASPnet の現場から - 「私たちはみな地球市民である」イニシアチブ
ドイツのユネスコ国内委員会は、グローバル危機において連帯のシンボルをつくるべく、ドイツのユネスコスクールに世界各国のパートナー校に呼びかけるよう働きかけました。その結果、五大陸 26 カ国の学校その他のパートナーから、パンデミック下での体験の写真、ビデオ、文章が送られてきました。詳細は[こちら](#)。

ASPnet チーム：

Julie Saito, Melanie Seto, Fouzia Belhami, Katja Anger, Simon Wanda, Helene Darne, Erik Eschweiler, Apolonia Torres, Ana Brtko

Get connected: <https://aspnet.unesco.org>

Contact us: aspnetinaction@unesco.org